

7. 社会貢献

新見公立大学法人 中期目標

Ⅱ. 法人の基本的目標

3 社会貢献

開かれた大学として広く学習の機会を提供し、教育研究の成果を積極的に還元することにより、地域及び国際社会の発展に貢献する。

(a) 社会への貢献

〈現状の把握〉

生涯学習機会の提供については次のとおりである。

本学は1980年の開学時から、大学教員の教育研究成果を地域に還元することを重要な役割と考えて、生涯学習機会の提供に積極的に取り組んできた。

旧新見女子短大時代から、公開講座および岡山県の事業である生涯学習大学を分担実施し地域に貢献してきた。しかし、受講生の減少等の理由により2005年から2008年の4年間は公開講座を中止し、岡山県の委託事業である生涯学習大学のみを開講していた。しかし、地域に対して学習機会の場を提供することは地域に根差した大学として重要な役割であるとの考えから、2009年度から再び年1回の公開講座を実施している。

①公開講座

新見公立大学・短期大学は、本学の公開講座および生涯学習大学をとおして地域の市民に対して大学の知的財産の還元を行っている。2007年度からの実施状況は表7-1のとおりである。

2007年度と2008年度は、大学独自の公開講座を開講していないが、生涯学習大学を開講している。生涯学習大学は、2007年度は、4日間にわたり計8講座、2008年度は、4日間にわたり計8講座、2010年度も同様に4日間にわたり計8講座を開講している。開講時期は秋季の10月から11月にかけての金曜日の午前・午後である。

また、公開講座は、2009年度は4日間にわたり計4講座、2010年度も同様に4日間にわたり4講座、同じく2011年度も4日間にわたり4講座開催している。

なお、毎回アンケートを実施しており、講座の内容に対してどのような意見や感想を持っているか、開催時期・曜日・時間などの意見を調査している。調査結果は、現状に肯定的な意見がほとんどである。また、講座の内容に対する意見は、次回の講座を企画するときの参考としている。

表7-1 公開講座実績（岡山県生涯学習大学を含む）

(人)

年度・テーマ	開催日	演題	講師	受講者数
2007年度 岡山県生涯学習大学 「目指そう！健康長 寿」	10月12日(金)	心の健康	地域看護学専攻 科 講師	18
		“楽しく” “気軽に” “無理なく” 今日から始める介護予防	地域看護学専攻 科 講師	16
	10月26日(金)	歯の健康 ～むし歯予防～	黒瀬歯科医院 院長	16
		歯の健康 ～歯槽膿漏予防～	黒瀬歯科医院 院長	18
	11月9日(金)	食生活の歴史 ～健康長寿のための食事～ 生活習慣病の移り変わり	新見市役所 栄養士	15
			地域看護学専攻科 准教授	15
	11月30日(金)	ボディートーク～心が笑えば体 も笑う～	ボディートーク 指導者	13
	ボディートーク～心が笑えば体 も笑う～	ボディートーク 指導者	12	
2008年度 岡山県生涯学習大学 「豊かな“こころ” と“からだ”をつく ろう」	10月17日(金)	からだのかたちと仕組み ～コラーゲンとその仲間たち～ 骨と運動	看護学科 教授	32
			幼児教育学科 助教	32
	10月24日(金)	元気で長生き ～生活習慣病の予防～	幼児教育学科 非常勤講師	28
		元気で長生き ～生活習慣病の予防～	幼児教育学科 非常勤講師	29
	10月31日(金)	いきいき、うきうき、楽しく暮 らす “こころの風邪” うつ状態の予 防	地域福祉学科講 師	30
		地域看護学教科 教授	30	
11月7日(金)	音の記憶と人生 ～日常生活の中で聴く音～ メタボリック症候群とは	地域福祉学科 講師	31	
		地域看護学教科 教授	30	
2009年度 新見公立大学・短期 大学公開講座	6月12日(金)	腎臓の生物学	看護学科 教授	25
	6月26日(金)	老化と癌	学長	30
	10月16日(金)	戦国時代の三傑と先祖の関係	旧新見藩第13代 末裔	26
	10月23日(金)	新見市哲西町の四王寺と玄賓伝 説	看護学科 教授	29
2010年度 新見公立大学・短期 大学公開講座	6月4日(金)	外国人の増加と多文化共生 ～ブラジル人集住地の現実を中 心に～	幼児教育学科 講師	18
	6月11日(金)	畝で拓いた農の途 ～新見・阿哲地域における戦後 開拓の展開～	地域福祉学科 講師	17
	6月18日(金)	新見藩について	郷土史家	26
	6月25日(金)	新見市の後醍醐天皇伝説	看護学部 教授	15

年度・テーマ	開催日	演題	講師	受講者数
2010年度 岡山県生涯学習大学 「共に生きる社会に むけて」	10月8日(金)	転倒予防チェック	看護学科 准教授	38
		これって認知症?	地域福祉学科 講師	36
	10月22日(金)	食べ方で決まる健康熟年期 ～メタボを予防し健やかで明るい 熟年期を～(調理実習)	地域福祉学科 非常勤講師	37
		食べ方で決まる健康熟年期 ～メタボを予防し健やかで明るい 熟年期を～(講義)	地域福祉学科 非常勤講師	37
10月29日(金)	もっと元気に動けるはず	幼児教育学科 講師	35	
	若さを保つためのアンチエイジ ング体操	げんき広場にいみ マネージャー	32	
11月5日(金)	死の美学 ～老方・死に方～ 一生おいしく食べるために	地域福祉学科 教授	38	
		地域看護学科 非常勤講師	33	
2011年度 新見公立大学・短期 大学公開講座	6月3日(金)	いきいき在宅介護 ～介護は“私”の問題～	地域福祉学科 助教	30
	6月10日(金)	丸川松隠と山田方谷との関係に ついて	山田方谷館 館長	33
	6月17日(金)	健康心理学でストレスや病気に 強くなる	幼児教育学科 講師	36
	6月24日(金)	ウイルスによる病気のはなし	看護学部 教授	31

②幼児教育学科

2008年4月、行政、地域の子育て支援関係者および機関が協働して地域の子育て支援を行う「にいみ子育てカレッジ」が設立された。これは、大学の知的資源を地域の中で有効に活用し、地域の子育て支援力の充実と質的向上を図ること、および「将来の子育て支援者」である学生の子育て支援力を育成することを目的とした取組である。本取組は、①子育て中の親子交流ひろば「にこたん」の開設、②子育て支援者に対する専門研修、③専門的な子育て相談、④将来の子育て支援者(学生)育成支援、⑤子育て情報発信、⑥子育て支援者連携・育成という6つの事業で構成されている。幼児教育にかかわる諸問題について、大学と地域が連携・協働して検討することができる本取組は、大学の知的資源を地域に還元するという意味において非常に有意義なものである。

③地域福祉学科

地域福祉学科では、2004年から私立岡山県共生高等学校(岡山県新見市)との高大連携授業に取り組んでいる。受講対象は、同高等学校看護福祉コースの介護訪問員(ホームヘルパー)2級資格取得を目指す3年生10数人である。受講生は、本学に登校し、本学の教員が「介護技術」「介護概論」「ケアプラン」等を内容とする1日当り3コマ(3時間相当)の講義・演習(1コマ50分間)を、5月から9月にかけて36時間実施している。また、地域住民の介護福祉士資格取得への支援として、介護技術講習会を実施している。

介護福祉士資格を取得するためには、本学地域福祉学科のような養成校を卒業して登録資格を取得する方法のほかに、実務経験3年間の資格要件を満たし、国家試験に合格して取得する方法がある。2010年度までの全国累計で63万人余りがこの方法で資格を取得しており、特に2006年度以降は全国で毎年6~7万人がこれに該当している。このような資格取得の方法に対しては、社会的なニーズが高いことを示している。本学地域福祉学科では、主に地域住民を対象とし、国家試験受験希望者が受講することで実技試験が免除される「介護技術講習会」を2005年度から実施している。夏休み期間中の学生の授業がない時期（4日間）に本学の教員が介護実習室等を利用して実施するもので、1回の受講定員は32人である。開始以来約260名が受講して修了認定を得ている。

地域の福祉施設職員の現任教育支援としては、本学地域福祉学科教員が福祉・介護事業所を訪問し、福祉・介護に関する知識や技術に関する研修を行う「岡山県キャリア形成訪問指導事業」（岡山県の2009年度からの3カ年事業）を実施している。介護職員を対象とし、1回60~120分の講義・演習を実施するものである。

地域や社会との交流を目的とする教育システムの整備については次のとおりである。

①科目等履修生

本学では、「学則」第37条において科目等履修生の受け入れおよび検定料・聴講料等を定め、「科目等履修生規程」によって、出願資格、在学期間、入学の時期、出願手続、選考等を、「科目等履修生の受入科目に関する細則」によって、受入科目および履修に必要な条件等を定めている。

しかし、地域の基盤人口が少ないこと、本学のカリキュラムが専門職養成を目的とする専門教育科目が主であることから、科目等履修生の希望者は少ないのが現状である。

新見公立短期大学学則

(科目等履修生等)

第37条 本学の開設授業科目のうち、1科目又は数科目を選んで聴講を志願する者があるときは、当該科目の授業に支障がない限りにおいて、学長は、選考の上、科目等履修生として入学を許可することができる。

②社会人聴講生

本学のカリキュラムおよび基盤人口から社会的ニーズが低いために、社会人聴講生の制度は設けていない。

③幼児教育学科

「こどもフェスタ」は新見公立短期大学と、設置者である新見市が市立ホール「まなび広場にいみ」で共同開催している幼児教育学科の表現発表会である。本取組の大きな特徴

は、新見市が地域文化への寄与および青少年の健全育成を目的とする自主企画事業として主催し会場を提供、本学幼児教育学科が作品構成や舞台演出を担当する共催の形で連携して開催していることである。本発表会は、新見市をはじめ地域から多大なる支援を得ており、本年度で21回を迎える。また年度によっては地域の依頼に応じ、地区公演を行うこともある。

④地域福祉学科

新見市の「土下座まつり」は、新見船川八幡宮秋季大祭の御輿の御神幸の前駆として大名行列を模して行われる伝統文化行事である。地域の文化を学ぶ学科の行事と「まつり」運営のための地域貢献活動とを兼ねて、全学生・学科教員全員が参加している。また、新見市神郷高瀬地区に伝わる「地踊り」には、希望学生と担当教員が参加している。

相互ボランティア活動とは、学生と地域住民が相互に学び合う取組である。稲作、蕎麦作りなどの農業体験、餅つきや蕎麦打ち、郷土料理作り、手芸や木工、昔の遊びなどを、地域住民の指導を受けながら行う活動、地域の独居高齢者宅へ訪問して雪かきや草取り作業を行う活動、介護福祉関連の施設や団体へのボランティア活動、地域のイベントを手伝う活動などを行っている。

これらはすべて介護福祉士養成教育の一環であり、学生は、介護福祉に必要なコミュニケーション力の向上や生活と人間の理解を目指している。一方、地域にとっては、伝統文化の継承、地域の活性化、地域の教育力向上や高齢者の生きがいにつながることで、学生と地域住民の双方に効果をもたらす活動となることを目的としている。

〈現状の分析・評価〉

生涯学習機会の提供の長所と問題点は次のとおりである。

①公開講座

公開講座は新見市内の一般市民を主な対象としており、開講テーマおよび日時等の情報については新見市の公報や新聞などで公開している。参加者数は各講座50名に設定しているが、各年度の参加率は、2009年度で55%、2010年度で38%、2011年度で66%であった。受講の申し込み人数は増加しているが、参加者の固定化が見られるため、講座分野および内容の拡大や開講日時の工夫が必要と思われる。開講日が、平日の午後であるため有職者は受講できず受講者の範囲が限られている。

公開講座の広報に関しては、広く市民に周知するために、新見市の公報や新聞などを活用している。

公開講座修了時に、アンケート調査を実施し、内容についての検討や開催日時について次回の参考にしている。

②幼児教育学科

「にいみ子育てカレッジ」で開設されている親子交流ひろば「にこたん」は、地域の子育て支援に広く貢献している。初年度では週2回の開設であったが、地域ニーズの高まりをうけ、2009年度からは週3回に開設日数を増やした。ひろば利用者は年々増加し、昨年度は延べ6,564名の親子がひろばを利用した。ひろば「にこたん」の運営には18団体が携わっており、その内訳は、岡山県備中県民局、新見市役所子ども課、岡山備北保健所を初めとする行政組織から、新見保育所、新見幼稚園などの保育組織、新見市幼児クラブなどの地域の保育・養育者まで多岐にわたる。これほどまでに地域に根差した子育て事業は全国的に類がなく、本取組は、地域と連携・協働した子育て支援育成という点においてきわめて有意義かつ先進的な取組であるといえよう。

「にいみ子育てカレッジ」の「将来の子育て支援者育成支援事業」では、2010年度は、「地域子育て支援の実際と展望について」をテーマに、新見市子ども課の主任（行政）、新見子育て広場の保育士（保育士）を招いてミニシンポジウムを行い、子育て支援を協働で行う方法や意義などについて学んだり、地域で子育て支援を行うことについて学びを深めたりしている。このように、「にいみ子育てカレッジ」の取組は、参加している幼児教育学科の学生にとって、直接的、間接的に地域の様々な人を知る機会であったり様々な機関の働きについて知る機会であったりと、保育、子育て、子育て支援を多面的に捉えることを可能にし、より質の高い保育者養成につながっていることが推測される。

幼児教育学科の学生は、1年次には主に見学実習を、2年次では自主実習という形で、実際に親子に関わりながら親や子どもの理解を深め、子育て支援の方法等について学んでいる。開設年度（2008年度）には、延べ319名の学生が「にこたん」に参加しており、行事参加が221名、自主実習参加が98名であった。3年目にあたる2010年度は、延べ379名の学生が参加しており、参加の内容は、行事が259名、自主実習が120名であった。このように「にこたん」への参加学生は増加している。教育効果については、自主実習日誌（実習終了時に提出）から、「子ども理解」「親理解」「親子の関係性の理解」を深めていることや「子育て支援の方法」「子育て支援の意義」について学んでいることがわかり、将来の子育て支援者として力をつけていることがわかる。

③地域福祉学科

新見市内の高等学校生徒を対象とし、大学施設内で本学の各専門分野の教員によって実施される高大連携授業（講義・演習）は、介護福祉教育への理解を深めるとともに、高校生自らの学習意欲の高揚を目的とするものであり、評価できるものと認識している。

本学で実施している介護技術講習会は、介護現場で実務経験を積みながら資格取得を目指す人にとって有益であり、実技試験免除だけでなく、筆記試験への対策にも役立っていると評価されている。また、受講者に対しアンケート調査結果においても高い評価を得ている。社会の高齢化による要介護者の増加にもかかわらず、介護従事者の不足や介護福祉

士を目指す高校生が減少しているという現状の中で、介護福祉士の養成と資質の向上の面からも社会的ニーズに合致していると認識している。

岡山県キャリア形成訪問支援事業は、介護職員の質の向上を目的として実施されるものである。2009年度には教員8名が分担し、23施設を訪問指導し総受講者数は558名であった。テーマは、各施設の希望により「高齢者の虐待・尊厳の保持」「介護の倫理—尊厳と自立を中心に—」「リーダーシップ・コーチング」「認知症ケア」などの講義や「移乗・移動の介護技術」「洗髪・移乗の介護技術」「高齢者と音、レクリエーション」「入所者とのコミュニケーション」等の演習であった。2010年度は、教員9名が分担し19施設を訪問指導し総受講者数は453名であった。テーマは、「安全管理」「役職者の心構え、倫理等」、「魅力ある職場づくり」、「記録の基本」「認知症ケア」「ターミナルケア」などの講義や「体位変換・移乗、移動の介護技術」「障害に応じた基礎介護技術」「レクリエーションの考え方と実践方法」等の演習であった。受講者の中には本学卒業生も含まれており、卒後教育としての意義もあった。施設によっては、勤務終了後の夜間の実施希望もあり、教員にとって負担感はあるものの、現任職員の研修を担当することで、福祉現場の課題に直接に触れる場でもあり、介護福祉士養成を担う教員として有益な機会である考えられる。さらに、大学の地域貢献や広報活動としての意義もあると思われる。

地域や社会との交流を目的とする教育システムの長所と問題点については次のとおりである。

①科目等履修生

現状では、社会貢献としての機能は限定的ではあるが、地域に開かれた大学として、希望があれば可能な限り受け入れたい。

②社会人聴講生

社会的なニーズは、限られていると考えている。今後の状況により検討したい。

③幼児教育学科

「子どもフェスタ」がこれほどまでに地域の厚い支持を受けている背景には、「この地で大学を存続させていくには、学生をしっかり教育し、優れた保育者や地域に貢献できる社会人を養成しなければならない」という教員の熱い教育理念がある。このような教育理念に基づき学生の指導を行うことで、学生は「集中力」「責任感」「自立性」「協調力」「コミュニケーション能力」など多岐にわたる能力を身に付けることができる。これらはいずれも保育者に求められる基本的資質に含まれるものであり、この点において本取組の教育的効果は非常に大きい。教育成果の社会還元という意味において、本取組は今後も継続していく必要がある。

④地域福祉学科

本学科では、地域や地域住民と交流する活動を介護福祉士養成教育の一環として取り組んでいる。各取組に参加した地域住民に対して実施したアンケートから、「地域にとって、土下座祭りや地踊りなどの伝統文化行事を伝承し、地域の活性化につながっている」、「学生に教えることに喜びややりがいを感じる」などの結果が得られている。また、地域住民を対象とした聞き取り調査からは、「学生に教えるために地域住民同士が計画したり、相談する機会が増えた。」など、地域のつながりが深くなったという状況がうかがえた。これらの結果は、学生が地域に貢献する活動だけではなく、地域住民から教えてもらう活動を行なうことによって、学生と地域住民が相互に支援する活動として取り組んだ成果であると考えている。

しかし、2008年度の介護福祉士資格要件に関する法令改正に基づくカリキュラム改正で、授業時間が増加したために、過密な時間割の間を縫うようにして実施せざるを得なくなった。このような活動によって、学生の学習効果の低下や教員の負担の増加などが懸念される場所である。

〈改善方策の検討〉

広く生涯学習の機会を提供するために「公開講座」の開催を年2回にし、内容の充実を図り、市民のニーズに応えられるよう努力する。内容も大学の公開講座としての専門的内容が求められており、アカデミックな講座を開講していく必要がある。また、多くの受講者が参加できるためには、開講曜日を休日あるいは夜間の開講など検討していく必要がある。

さらに地域支援センターを活用し、市民の希望に応じて出張講座等の講演依頼にも柔軟に対応する必要がある。開講する講座の分野について幅を広げ、市民のニーズを把握しより多くの市民が興味を持って参加できる講座の開講をめざしている。

地域福祉学科の高大連携授業については、教育プログラムを全体的に整理し、講義・介護技術演習・体験学習へと段階的に発展できるように検討する必要がある。そうすることで教育効果を一層高め、生徒の理解力も増すものと思われる。生徒はホームヘルパー2級資格の取得にとどまらず、大学教育の雰囲気を感じて、将来の目標がより具体的になるとと思われる。また、介護技術講習会は、受講者個人にとっても有益であり、社会的にも意義のあるものである。今後も制度的に必要とされる期間は継続したい。岡山県キャリア形成訪問指導事業については、社会の要請に応じて今後も継続したい。

地域や社会との交流を目的とする教育システムについては次のとおりである。幼児教育学科の子育てカレッジは2011年で4年目を迎えるが、各事業を充実・拡大するにしたがって課題も明らかになってきた。親子交流ひろば「にこたん」には多くの学生が参加するようになり、日誌を提出することで自身の学びや成長を確認する機会にもなっている。一方で、参加が個々の自主性に任せられていることから、学びの質や量に個人差が見られるという

課題があげられる。すべての学生が子育て支援力を均等に身につけるためには、子育てカレッジにおける学習を単位としてカリキュラムに位置づけるなど、学習環境のより一層の整備が求められる。地域福祉学科の相互支援活動については、学生の学習効果や教員の負担を調査しながら今後も継続していきたい。

(b) 自治体や企業等との連携

〈現状の把握〉

自治体や企業等との連携については次のとおりである。

①岡山県生涯学習大学

岡山県の高齢者を主な対象とする生涯学習講座「おかやま長寿学園」委託事業（県内の大学等に講座開設を委託）を1992年から受託し、毎年講座を開設してきた。1996年からは、「岡山県生涯学習大学」と名称を変更して対象を一般市民に拡大している。2009年度からは、県の事業縮小で隔年開設になった。本学では、毎回8講座程度を開講し、ほとんどを本学教員（一部は外来）が講師を担当している。なお、本事業は法人としての受託であることから、2010年度以降は併設大学教員も講師を担当している（表7-2）。

表7-2 最近の岡山県生涯学習大学の実績 (人)

年度	2006	2007	2008	2009	2010	2011
受講者数	10	21	23	—	33	—

②新見市学術交流センター

新見市では、2008年4月1日に「地域の大学と市民の交流を図り、市民の様々な教育研究活動と産官学連携交流を促進する」ことを目的として、本学キャンパス内に「新見市学術交流センター」を設置した。同センターは、交流ホール、研修室、センター附属図書館の施設を備え、「(1)文化活動の振興に関する事業、(2)各種講座等の開設および講習会、講演会等の開催に関する事業、(3)図書、記録その他必要な資料収集、保存、目録整備および市民等の利用に関する事業、(4)他の図書館および学校に付属する図書館または図書室と連携して行う事業、(5)視聴覚教育に関する事業、(6)教育指導者の養成に関する事業、(7)その他前各号に掲げるもののほか、設置目的を達成するために必要な事業」の各事業を実施することになっている。また、同センター内には、センター附属図書館と本学附属図書館（併設大学と共用）とが一体として設置されている。新見市は、本学法人を地方自治法に基づく指定管理者に指定し、法人は「(1)センターの事業に関する業務、(2)施設の利用許可に関する業務、(3)施設および付属設備の維持管理に関する業務、(4)センターの運営に関する業務のうち市長の権限に属する事務を除き、市長が必要と認める業務」の各業務を執行している。この措置によって、センター附属図書館および本学附属図書館について、施設並びにそれぞれ新見市備品および法人資産である蔵書等を、法人が一体的に管理する

ことになっている。なお、同図書館は、図書館法上の公共図書館ではなく、大学図書館の位置づけになっている。

③子育てカレッジ

岡山県の地方出先機関で新見市を含む地域を管轄する岡山県備中県民局は、大学・地域・行政の協働により、大学の専門知識等を地域子育て支援に生かす取組として、学生等も参加する親子交流モデル事業や現場の保育士などの課題解決のための研修、子育て支援関係者の情報交換等を地域ぐるみで行う大学内子育て支援拠点、子育てカレッジを各地域に提唱・推進している。事業内容は、「(1)大学等の学生が参加して実施する親子交流等、(2)保育士、幼稚園教諭、その他地域の子育て支援サービスの提供者の対する質的向上の取組、(3)子育てや子育て支援に関する相談の実施、(4)子育てや子育て支援に関する情報発信、(5)子育て支援に関するボランティア・NPO や企業の活動への支援、(6)地域の子育て支援関係者の情報交換」等である。

本学では、この取組に呼応して、2008年4月6日に本学キャンパス内の「新見市学術交流センター」に県内第1号として、全国的にも先進的な取組である「子育てカレッジ」を開設した(127ページ参照)。この取組には、主に幼児教育学科の教員・学生が参画している。市民の利用者は、2011年8月19日に延べ2万人に到達した。この取組は、その後、全県的に発展し、「子育てカレッジ」を設置したのは、2010年8月までに本学を含めて10大学等に及んでいる。「子育てカレッジ」開始に必要な施設・設備整備等の経費、2011年度からは地域貢献事業に対する経費について、県の補助を受けている。なお、本事業は岡山県の補助事業を新見市が本学法人に委託しているものである。

なお、「子育てカレッジ」は、本学の本館・体育館改築工事に伴い、一時的に近隣の新見市西方ふれあいセンターに移設されている。来年度には、新築体育館内に専用施設を併設し、2013年2月の供用を予定している。

④岡山県キャリア形成訪問指導事業

岡山県では、2009年3月から3カ年の計画で福祉・介護人材の確保を緊急に支援するために、県内の介護福祉士養成施設を設置する団体等を対象として、教員等が、「福祉・介護施設・事業所を巡回し、介護技術等に関する技術等の研修を行うことにより、職員のキャリアアップや資質の向上および定着を支援すること」を目的とする補助事業を実施している。本学法人では、短期大学地域福祉学科が、この事業を実施している。2010年度は、地域福祉学科教員が19回、2011年度は33回の訪問研修を実施している。

⑤介護技術講習会

介護技術講習会は、社団法人日本介護福祉士養成施設協会への協力事業として、本学が2005年度から実施しているものである。「介護福祉士国家試験を受ける予定であり、実技試

験免除を申請しようとする者」が受講資格者であり、主に地域住民の希望者を対象としている。講習会は、厚生労働大臣にあらかじめ介護技術講習実施届出書を提出した介護福祉士養成施設が実施するもので、本学地域福祉学科が実施施設として届け出ている。2009年度および2010年度にそれぞれ31名、2011年度に26名が受講した。

⑥許可による兼業

2011年5月1日現在で、短期大学教員9名（看護学科教員1名3件を含む）が16件の国・地方公共団体等の委員・相談員・評議員等に就任している。依頼機関は、国（岡山労働局）、岡山県（教育委員会を含む）、新見市（教育委員会を含む）である。ちなみに、2010年度以降、順次併設大学に移籍した教員7名が11件の同様の職に就任している。

⑦企業との連携

過去には、本学教員が企業からの委託研究（福祉用品の開発研究等）を実施していた実績があるが、現在は該当事業がない。

〈現状の分析・評価〉

地域に開かれた大学との設置理念から、社会貢献活動として、自治体等との連携事業を実施している。「子育てカレッジ」「新見市学術交流センターにおける蔵書整備」等の事業では、学生教育にも活用し教育効果がみられている。その他の事業においても情報収集や業務経験などが、本学の教育研究活動に直接的・間接的に役立つ場合があると認識している。

教員の業務従事に関して、2008年度の法人化前には、職務が地方公務員法および教育公務員特例法の観点から、大学教員の本来業務との関係が必ずしも明確でない場合があったが、法人化によって、中期目標等にも明記された業務として明確化された。また、必要経費等の支出および委託料・補助金・受講料等の収入についても、法人会計として財務処理できるようになった。

〈改善方策の検討〉

今後も地域の要請に応じて、従来活動を発展的に継続したい。

